

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390101659		
法人名	有限会社ゆうしん		
事業所名	グループホームゆうしん水前寺		
所在地	熊本県熊本市中央区水前寺5丁目20-5		
自己評価作成日	平成31年1月7日	評価結果市町村受理日	平成31年2月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	平成31年1月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1Fに認知症カフェ(レクエルド)を併設し、地域の方やグループホームに入居されているご家族様等に利用いただいている。地域との懸け橋として、今後も力を入れていきたいと考えている。グループホームでは、入居者の誕生日会はもちろんの事、ボランティアの活用や外出行事に力を入れている。また、行事結果の報告として、4半期ごとにニュースレターという形でご家族様に報告(郵送)をしている。認知症の方が自分らしい生活を送れるように、職員みんなで協力して運営を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

県庁や水前寺公園など熊本の中核の機能や観光地を徒歩圏内に持つホームは、開所から3年の今年度は接遇目標を定めて、入居者が安心して心地よく過ごせるサービスの提供に努めている。特に2名の方の看取り支援が行われた際は、家族の意向に最大限寄り添い、職員間の連携を図りながらホームに出来得る支援に取り組んでいる。入居者の最終の場面に関わったことで、職員の言動にもこれまでと違った変化が表れてきたと管理者は語っている。家族の面会時に思い出の旅行や観光地の話をされる入居者の穏やかな表情は、日常の時間の大切さをあらためて感じる光景であった。職員体制や入居者の現状から以前より戸外に出る機会は少なくなっているようであるが、寒さも和らぎ気候の良い日は努めて、静かな住宅街の中を散歩したり、玄関先で外気に触れるなど、入居者と職員と一緒に季節を楽しむゆとりの時間を確保されることを期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の啓示を行い、毎朝朝礼時に全員で唱和を行っている。全職員が理念を共有して実践に繋がれるように努力している。	平成27年の開所以来、法人の基本理念である「誠実と笑顔」「安全と安心」「地域社会の信頼」の三項目をホームの指針として運営している。本年度、新たに作成した接遇目標とともに朝礼で唱和して意識強化を図り、担当職員がその日の個人目標を発表する事で、各自がケア目標を意識しその日のスタートとしている。	接遇目標を設定したことで、徐々に職員の意識向上につながっている。現在、法人理念をホームの指針としているが、事業所独自で理念を設定することで、ホームの個性や地域性がより明確になり、ケアの原点として取り組みやすいものを検討されることが期待される。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	廃品回収時などは入居者を連れて参加する等、少しずつであるが、地域の方との交流も出てきている。地域行事にできる限り参加できるように努力していく必要がある。	職員移動(異動)が多かったこの一年は、人員配置などの点から、地域交流にも少なからず影響があったようである。1階の認知症カフェ(現在は休館)での交流は、入居者が人々と顔を合わせ、地域情報に触れる機会である。近隣にある協力医の夏祭りや、水前寺公園一帯で行われる“水前寺まつり”に参加し、当初より継続している子ども会主催の廃品回収への協力や、校区主催の勉強会に職員を講師として派遣し、地域と繋がる努力をしている。	現在諸事情により1階の認知症カフェが休館しており、ホームも1日も早い再開を望んでいるが、その後は老人会の会合に使われるなど、地域貢献にも繋がっており、今後も運営推進会議などで場所提供の啓発に努められることを望みたい。また、校区内の小・中学校との交流の手始めとして、ナイスストライなどの受け入れに取り組みられることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の勉強会や震災支援の健康サロン等に会社、事業所で参加をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にてグループホームの活動報告を行い、地域の方と意見交換を行っている。	推進会議を地域交流の柱として、ホームからの現状報告と共に参加者からの地域情報の収集がホーム運営に活かされている。包括職員や地域から民生委員、老人会長などが参加し、包括主催行事“いきいき100歳体操”の交流会報告や、地域代表者から身体拘束についての疑問や行事の誘い、カフェ再開を望む声などもあがっている。	ホームと地域をつなぐ貴重な会議であり、今後も家族の参加に向けた取り組みや、議事録の開示以外にも口頭での説明の機会などに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に包括職員の方に参加して頂き、ホームの現状を報告している。	法人全体で包括との連携作りに努めている。運営推進会議への職員の参加により、地域高齢者の福祉の現状や取組が情報としてたらされ、ホームの現状を共有しながら行事への誘いを受け、ホームでは市の介護相談員の派遣を検討したいとしている。	現在、介護相談員との連携を検討しており、入居者の声を聞く一手段として実現が期待される。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修や事業所独自の研修を通じて、身体拘束について勉強を行い、ケアに生かしている。	本年度は法人全体で研修の機会を多く持ち、特に身体拘束については時間をかけ、全職員が拘束ゼロへの取組を共通認識として、意識してケアにあたるよう努力している。職員のストレスチェックの実施により、不安や心配事への理解や対応に活かし、入居者への適正かつ心ある支援に繋がるよう心がけている。	今後も定期的な研修の機会と、日々の支援の中で気になる点は申し送りの時間などを活用し、その都度検討する場を持たれることが期待される。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修で虐待について学び、身体的虐待はもちろんの事、日ごろの職員の行動や言葉による精神的虐待にならないようにしている。ストレスチェックも会社として行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度等を利用されている方がいない為、活用までには至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族に契約内容を説明し、丁寧に対応するように心掛けている。また、契約書の改定があった場合には事前に連絡し、個別に説明を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が面会に来られた際に、現在の状況を説明し、要望や意見があった場合には職員で情報を共有している。 意見箱を設置。	家族会は立ち上げていないが、面会時には直接話を聞くよう努めている。用意された意見箱を活用し、出された意見をミーティングで共有して、改善策が図られている。入居者自身があらためて意見を口にされることはないが、食事や室温など普段の生活の中で意思を確認し、気持ちよく過ごしてもらうことを優先している。	本人・家族の意見は全職員で共有し、対応に努めているが、今後は是非良い点も含めて内容や改善点を記録に残し、ケアに反映させていただきたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼時での申し送りやスタッフミーティングの中で提案を出し合い、運営に生かしている。 代表や上長の訪問もあり、入居者の様子や職員とのコミュニケーションを図っている。	月のスタッフミーティングには殆どの職員が参加し、2・3階の各ユニットの状況確認やケアの問題点を話し合い、職員から双方の良いことを共有したいといった意見が出ている。現在、ユニットの壁を越え入居者の状況を把握し、どちらにも対応できる体制へ向け取り組みを進めている。職員の資格取得への後押し(金銭的負担)や、中途採用者に対する研修の確立など職場の環境整備を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者がホームを訪れ、職員に声を掛けられる。 人事を通して、職員の職場環境・労働条件等の整備を個別で行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度より、法人でoff-JT研修を実施し、職員は研修に参加してスキルアップに努めている。 初任者研修や実務者研修を職員に受けてもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	水前寺地域の事業所の研修会や親睦会等を通じて、情報交換をしサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族や本人が相談に来られた時に、何に困っているのか、不安なことは何かを丁寧に聞き取りをし、安心して入居ができるように配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族や本人が相談に来られた時に、何に困っているのか、不安なことは何かを丁寧に聞き取りをし、安心して入居ができるように配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族と面会、相談を受けた上で、入居を望んでいるのか、その他の支援を望んでいるのかを丁寧に聞き取りし、見極めを行っている。 必要があれば、他のサービスを提案、繋げられるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人と共に家事を行っていく中で、役割意識を持って頂くようにしている。共感できる関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	普段の様子や、身体状況を報告し、入居者の今を把握して頂くように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの病院、なじみの理容室を継続して利用ができるようにしている。 買い物をするための外出支援も行っている。	入居者にとって家族の来所が一番の楽しみであり、リビングや居室でゆっくり過ごしてもらった働きかけをしている。また、夫婦で入居されている方には昔を振り返りながら、互いに話を聞くよう努めている。理美容支援は主に訪問による対応としているが、中には行きつけの店へ家族と出かける方や、墓参のために定期的に出外される方もおられる。入居者が直接調理に関わることは無いが、届いた新鮮な食材を見ってもらうことで、食への興味や馴染みの野菜などへの関心を引き出している。	生活歴などから馴染みの趣味や特技を掘り下げ、ホームで出来ることがないか今一度検討し、必要以上に飾り立てることは無いが、職員との共同作品を掲示することで、共有スペースも馴染みの一つとして認識されるものと思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	今年度より入居者同士の交流会を図る為、誕生日会や花見等の外出行事を増やしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時のフォローをはじめ、退去後も相談できるようにご家族に説明している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや希望を日常会話から引き出すように努力をしている。	職員はあらたまって話を聞くのではなく、日常生活の中で入居者の言動から好きなこと、したいことを見極め、プランに繋ぐよう心掛けている。家族の面会時には入居者の近況を伝えながら希望を聞き取り、日々の支援に反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴を参考にしながら本人や家族の意向を尊重し、安心して生活が送れるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	身体面や精神面の観察に努め、スタッフ間で情報を共有し、介護方法など検討に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、職員から情報を収集し、ケアカンファレンス等を通じて、介護計画書を作成している。	計画作成担当者は、入居者の普段の状況や家族・職員からの情報をもとにプランを立案している。馴染みの習慣や外出への対応、入居者の残存能力を活かした内容を盛り込んでいる。夜間帯にオムツを使用する方にも日中のトイレ誘導にて自尿に繋がたり、入居者の動線に合わせた居室の環境整備などを計上している。家族へはこれから行う生活動作を説明しながら入居者のペースに合わせたケアを行う事などを分かりやすく説明するよう工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画書に従い、ケアの状況や結果を個別に記録し、情報を共有しながら介護計画書の見直しに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のニーズを伺い、介護保険以外の訪問や訪問理美容、ボランティアを活用している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用はできていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族と話し合い、要望に沿った対応を行っている。病状の悪化時には、主治医へ連絡を行いう、適切な対応が取れるように努めている。 複数の病院受診が必要な場合には、ご家族にも協力を依頼している。	本人・家族の希望するかかりつけ医を支援しており、殆どの方が協力医を望まれ、受診はホーム対応としている。その他の医療機関や専門医については家族の受診対応を基本としているが、ホームでも柔軟に応じている。結果は家族と共有を図り、相談事項にも応じながら適切な医療支援に努めている。歯科についても受診や訪問診療時には、口腔ケアについてアドバイスを受けている。	入居者の中には歯磨きやうがいやが難しい方もおられ、スポンジを併用しながら口腔内の衛生に努めている。今後も主治医との連携を図りながら、入居者の健康を支えていただきたい。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約し、24時間のオンコール体制、週1回の訪問による健康チェックや相談を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に際し、安心して治療ができるように配慮している。入院先には、入居中の様子や入院に至った経緯をまとめ、情報提供を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における対応の指針を入居者、ご家族と取り交わしを行い。随時、事前指定書に関しても取り交わしを行っている。	重度化した場合の対応について指針をもとに説明を行い、書面で同意を得、状態変化が生じた時点で主治医と意向や方向性について話し合っている。今年度二名の方の看取りを支援しており、支援中も家族の希望により、居室の戸を開け、他の入居者の声やホーム内の雰囲気伝える取組が行われている。息子さんの作られたスープを食べて安心した表情で最期を迎えらえる等、家族の協力を得ながら、ホームに出来得る支援が行われている。	家族の意向に近づけるよう、職員は出来得る支援に積極的に取り組んだことが聞き取りからも確認された。今後も日常の支援の重要性を職員間で共有する機会や定期的な研修会の開催に期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に社内研修でAEDの操作方法や救命救急法を学んでいる。緊急時の連絡方法も周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練の実施している。災害時の緊急連絡網を作成し、活用している。法人として、防災マニュアルの整備を行っている。	今年度の災害訓練は12月に自主訓練を行っており、年度内に1回予定している。訓練後の反省では、職員の声がよく出ており、継続していくことや、通報では、消防署より東西南北をはっきり把握しておくことを指導されている。	自然災害については、特に地震被害を風化させないためにも机上の訓練の開催を期待したい。今後もコンセンの埃やホール、居室に避難の妨げになるものはないかなどを含め、日々の安全管理に努めていただきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	社内研修にて虐待防止、プライバシー保護について学び、職員一人一人が意識しながらケアを行っている。社内はもちろんの事、社外では会社で知りえた情報を口外しないように徹底している。	プライバシーの保護や言葉使いなどについては、接遇目標を決めて、職員が意識を持って支援にあたるようにしている。管理者は今年度の看取り支援によって、心構えや言葉使いなど職員に変化をもたらしたと語っている。呼称は苗字にさん付けを基本とし、申し送り時も個人名を控えて伝達している。同性介助については、入居者からの希望もなく実施されていない。	同性介助については現在要望される方はおられないようであるが、家族や時には本人に確認することも必要と思われる。また、居室へ入る際は在室の有無に関わらず、声掛けやノックの徹底に期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行事等への参加、不参加の自己決定を促すように声掛けを行っている。希望や要望があった時はできる限り対応できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の1日のペースを把握し、入居者のペースに合わせてケアを行うように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整髪や髭剃りを行い、衣類が汚れている時は更衣を行うように身だしなみには配慮している。 月1回の訪問理美容も活用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	全員ではないが、お手伝いができる入居者には食事作り(野菜の皮むき)をお願いし、一緒に作るようにしている。	本体の栄養課より届く献立をもとに、職員が調理を行っている。行事食は季節を味わうことができ、誕生会のケーキと共に入居者は楽しみにされている。現在、食材は専門の業者からの配達为中心であり、食事作りに関わる入居者もおられず、食への関わりは支援できていないようである。食事形態は個々の嚥下状態に応じキザミやミキサー、トロミなどを準備している。	味や量の確認や入居者と思いを共有するためにも職員が1名でも同じものを摂ることができないか検討されることを期待したい。また、野菜や精肉など専門の業者から配達されており、それらの取組についても家族へ伝える事で、安心に繋がると思われる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者に合わせた食事形態の提供に努めている。食事の量などは入居者それぞれで調整をしている。 脱水にならないように、水やお茶だけでなく、コーヒーや甘いものなど、できる限り本人の意向に沿ったもの提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態に合わせた援助方法で毎食後の口腔ケアを行っている。 訪問歯科の無料検診等も活用している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間や表情、体動で排泄の声掛けを行い、誘導をしている。 夜間帯はオムツを使用しても、日中はリハビリパンツ、トイレを使用するように援助に努めている。	個々の排泄パターンに応じて声掛けや誘導、自立の方の継続に努めている。排泄用品はホームで準備しており、取組状況などについては面会時やプラン説明時に伝え、要望なども聞き取っている。トイレはユニットごとに3か所設置されており、使い慣れた場所や使用が重なる場合は、職員が空きを確認し誘導することで失敗の無いようにしている。トイレは定期的な掃除により、清潔に使用できるように努めている。	トイレ内の芳香剤の使用方法によっては、逆に不快な臭いになることもあり、脱臭効果のある物など、検討されることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行い、排便が出ていない方には水分を多めに取ってもらい、散歩など体を動かすように促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の拒否や体調に応じて、無理強いしないようにしている。季節ごとに菖蒲やゆず、入浴剤を使用して、入浴を楽しんでもらうように努めている。 安全面を配慮し、リフト浴を使用している。	入浴は本人の希望や体調を確認しながら、週2回を基本としており、失禁時などはその都度対応し清潔保持に努めている。3階にはリフト浴が設置されており、身体状況に応じて使用されている。風呂上りや誘導は2名で介助するなど個々に応じて安全な入浴支援に取り組んでいる。季節の柚子湯も取り入れており、全員が楽しめるよう3日分を用意している。	脱衣所に置かれた洗剤などについては、安全面からも別の場所で管理することで、スッキリとした環境となり、気持ちに良い入浴にも繋がっていくと思われる。収納スペースの確保に期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活パターンやその時の状況に応じ、くつろいで過ごせるように支援している。 日中の活動量をできる限り増やし、夜間に安眠できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの病歴、薬について職員それぞれがしっかり把握し、誤薬がないように職員間で確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の体調に合わせ、家事手伝いの声掛けや趣味活動を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や食材の買い出しを入居者と一緒に行っている。外出支援として花見や初詣等を今年度より取り組んでいる。 ご家族にも協力してもらい、外出をお願いしている。	2・3階にあることから、日常的な外出は困難な面もあり、地域にある医療機関への受診時には、努めて遠回りをして散歩を楽しむなど工夫している。家族の協力としては限られた方であるが、受診や外食、墓参、美容室利用の他、この正月も自宅に外泊された方もおられる。	入居者全員での外出は困難な面もあり、今後は個別でホーム近隣の散歩や玄関先での外気浴など身近な外出の機会を支援いただきたい。また、家族の面会時にも散歩の働きかけを行うなど、協力を受けながら入居者が戸外に出る機会を支援されることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人、家族の希望に応じて本人に管理してもらっている方もいる。基本的に職員でお金は管理し、買い物や外出時に使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	なじみの方から贈り物等が届いた際は、一緒に電話をかけ、交流関係が円滑に継続できるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然光をできる限り取り入れ、空気の入替から季節を感じてもらっている。 入居者の方が作ったカレンダーを貼り、居心地良く過ごせるように工夫している。	3階建ての2・3階にユニットが配置されており、それぞれ明るいリビングホールでは、食事やテレビ視聴、新聞を広げるなど日中の生活の場となっている。家族の面会で旅行の思い出や訪問先の写真が掲載された本(オーロラ)を楽しまれる方、職員との会話で笑い声を発せられる方など、日常の光景が伝わってきた。以前作成していた季節のカレンダー作りは、職員配置や入居者の高齢化などもあり、現在は実施されていないようである。	掲示物の有無のみが環境作りではないが、カレンダー作成などが困難であれば、写真付きカレンダーなどにより季節感を感じてもらえる事も良いと思われる。また、庭先に咲いた花などを取り入れる事で入居者にとっては居心地の良さに繋がっていくと思われる。職員の一工夫に期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓やソファ等、好きな場所にてテレビを見たり、職員と一緒におりがみや歌などを思い思いに過ごしてもらえるように努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族と相談し、使い慣れている家具等を持ち込んでもらっている。	本人のお気に入りや使い慣れた品など、居室への持ち込みについて家族へ依頼している。自宅にあったテレビや衣類が掛けられたハンガー、小物などの持ち込みもあるが、収納ケースや必要な寝具など新たに準備される方もおられる。居室の掃除は職員が定期的に行っており、気持ちよく過ごせるように努めている。	季節外の布団や衣類など持ち帰りが困難な家族もおられることから、今後は圧縮袋などを使用し、環境を損なわないための取組を期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	毎日掃除を行い、入居者が清潔な環境で生活が送れるように努めている。危険認知の低下がみられる入居者が多い為、動線上に障害物が無いように環境整備に努めている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390101659		
法人名	有限会社ゆうしん		
事業所名	グループホームゆうしん水前寺 (3F)		
所在地	熊本県熊本市中央区水前寺5丁目20-5		
自己評価作成日	平成31年1月7日	評価結果市町村受理日	平成31年2月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	平成31年1月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>IFに認知症カフェ(レクエルド)を併設し、地域の方やグループホームに入居されているご家族様等に利用いただいている。地域との懸け橋として、今後も力を入れていきたいと考えている。グループホームでは、入居者の誕生日会はもちろんの事、ボランティアの活用や外出行事に力を入れている。また、行事結果の報告として、4半期ごとにニュースレターという形でご家族様に報告(郵送)をしている。認知症の方が自分らしい生活を送れるように、職員みんなで協力をして運営を行っている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p> </p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の啓示を行い、毎朝朝礼時に全員で唱和を行っている。全職員が理念を共有して実践に繋がれるように努力している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	廃品回収時などは入居者を連れて参加する等、少しずつであるが、地域の方との交流も出てきている。地域行事にできる限り参加できるように努力していく必要がある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の勉強会や震災支援の健康サロン等に会社、事業所で参加をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にてグループホームの活動報告を行い、地域の方と意見交換を行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に包括職員の方に参加して頂き、ホームの現状を報告している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修や事業所独自の研修を通じて、身体拘束について勉強を行い、ケアに生かしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修で虐待について学び、身体的虐待はもちろんの事、日ごろの職員の行動や言葉による精神的虐待にならないようにしている。 ストレスチェックも会社として行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度等を利用されている方がいない為、活用までには至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族に契約内容を説明し、丁寧に対応するように心掛けている。また、契約書の改定があった場合には事前に連絡し、個別に説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が面会に来られた際に、現在の状況を説明し、要望や意見があった場合には職員で情報を共有している。 意見箱を設置。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼時での申し送りやスタッフミーティングの中で提案を出し合い、運営に生かしている。 代表や上長の訪問もあり、入居者の様子や職員とのコミュニケーションを図っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者がホームを訪れ、職員に声を掛けられる。 人事を通して、職員の職場環境・労働条件等の整備を個別で行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度より、法人でoff-JT研修を実施し、職員は研修に参加してスキルアップに努めている。 初任者研修や実務者研修を職員に受けてもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	水前寺地域の事業所の研修会や親睦会等を通じて、情報交換をしサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族や本人が相談に来られた時に、何に困っているのか、不安なことは何かを丁寧に聞き取りをし、安心して入居ができるように配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族や本人が相談に来られた時に、何に困っているのか、不安なことは何かを丁寧に聞き取りをし、安心して入居ができるように配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族と面会、相談を受けた上で、入居を望んでいるのか、その他の支援を望んでいるのかを丁寧に聞き取りし、見極めを行っている。 必要があれば、他のサービスを提案、繋げられるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人と共に家事を行っていく中で、役割意識を持って頂くようにしている。共感できる関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	普段の様子や、身体状況を報告し、入居者の今を把握して頂くように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの病院、なじみの理容室を継続して利用ができるようにしている。 買い物をするための外出支援も行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	今年度より入居者同士の交流会を図る為、誕生日会や花見等の外出行事を増やしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時のフォローをはじめ、退去後も相談できるようご家族に説明している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや希望を日常会話から引き出すように努力をしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴を参考にしながら本人や家族の意向を尊重し、安心して生活が送れるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	身体面や精神面の観察に努め、スタッフ間で情報を共有し、介護方法など検討に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、職員から情報を収集し、ケアカンファレンス等を通じて、介護計画書を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画書に従い、ケアの状況や結果を個別に記録し、情報を共有しながら介護計画書の見直しに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のニーズを伺い、介護保険以外の訪問や訪問理美容、ボランティアを活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用はできていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族と話し合い、要望に沿つた対応を行っている。病状の悪化時には、主治医へ連絡を行いつつ、適切な対応が取れるように努めている。 複数の病院受診が必要な場合には、ご家族にも協力を依頼している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約し、24時間のオンコール体制、週1回の訪問による健康チェックや相談を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に際し、安心して治療ができるように配慮している。入院先には、入居中の様子や入院に至った経緯をまとめ、情報提供を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における対応の指針を入居者、ご家族と取り交わしを行い。随時、事前指定書に関しても取り交わしを行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に社内研修でAEDの操作方法や救命救急法を学んでいる。緊急時の連絡方法も周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練の実施している。 災害時の緊急連絡網を作成し、活用している。 法人として、防災マニュアルの整備を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	社内研修にて虐待防止、プライバシー保護について学び、職員一人一人が意識しながらケアを行っている。社内はもちろんの事、社外では会社で知りえた情報を口外しないように徹底している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行事等への参加、不参加の自己決定を促すように声掛けを行っている。希望や要望があった時はできる限り対応できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の1日のペースを把握し、入居者のペースに合わせてケアを行うように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整髪や髭剃りを行い、衣類が汚れている時は更衣を行うように身だしなみには配慮している。 月1回の訪問理美容も活用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	全員ではないが、お手伝いができる入居者には食事作り(野菜の皮むき)をお願いし、一緒に作るようにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者に合わせた食事形態の提供に努めている。食事の量などは入居者それぞれで調整をしている。 脱水にならないように、水やお茶だけでなく、コーヒーや甘いものなど、できる限り本人の意向に沿ったもの提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態に合わせた援助方法で毎食後の口腔ケアを行っている。 訪問歯科の無料検診等も活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間や表情、体動で排泄の声掛けを行い、誘導をしている。 夜間帯はオムツを使用しても、日中はリハビリパンツ、トイレを使用するように援助に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行い、排便が出ていない方には水分を多めに取ってもらい、散歩など体を動かすように促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の拒否や体調に応じて、無理強いしないようにしている。季節ごとに菖蒲やゆず、入浴剤を使用して、入浴を楽しんでもらうように努めている。 安全面を配慮し、リフト浴を使用している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活パターンやその時の状況に応じ、くつろいで過ごせるように支援している。 日中の活動量をできる限り増やし、夜間に安眠できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの病歴、薬について職員それぞれがしっかり把握し、誤薬がないように職員間で確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の体調に合わせ、家事手伝いの声掛けや趣味活動を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や食材の買い出しを入居者と一緒に行っている。外出支援として花見や初詣等を今年度より取り組んでいる。 ご家族にも協力してもらい、外出をお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人、家族の希望に応じて本人に管理してもらっている方もいる。基本的に職員でお金は管理し、買い物や外出時に使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	なじみの方から贈り物等が届いた際は、一緒に電話をかけ、交流関係が円滑に継続できるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然光をできる限り取り入れ、空気の入替から季節を感じてもらっている。 入居者の方が作ったカレンダーを貼り、居心地良く過ごせるように工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓やソファー等、好きな場所にてテレビを見たり、職員と一緒におりがみや歌などを思い思いに過ごしてもらえるように努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族と相談し、使い慣れている家具等を持ち込んでもらっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	毎日掃除を行い、入居者が清潔な環境で生活が送れるように努めている。危険認知の低下がみられる入居者が多い為、動線上に障害物が無いうように環境整備に努めている。		